

関市「家庭教育支援チーム」支援コーディネーター育成のねらい

関市生涯学習課

1 家庭を取り巻く状況や子育てを支える環境の大きな変化

- (1) 家族構成の細分化や情報化社会の深化による、家族のつながりの希薄化
 - ・核家族化の進行やスマートフォン等の情報機器の普及により、家族間の交流が減り、意図的に情報を共有しないと家族の関心や悩み、心配ごとなどがわかりにくくなっている。
- (2) 働き方の多様化や地域環境の変化による、家族と地域社会とのつながりの希薄化
 - ・雇用環境の多様化が進み、一日の中で家族が一堂に会する時間が限定されてきている。
 - ・地縁的なつながりや人との関係が疎遠になり、子育てを学ぶ機会が減ったり、悩みを相談できる人がそばにいなかったりしている。
- (3) 社会の格差の拡大による、支援を必要とする家庭における問題の深刻化
 - ・支援を必要とする家庭の生活の劣化が進み、子どもの放任や虐待などの問題が多発している。
 - ・そうした家庭への支援体制構築が急務であるが、現状では十分に整備されていない。

2 子育てを取り巻く現状と課題

- (1) 伝統的な子育ての方法や知識では十分に対応できない、ネット依存や発達障がいの顕在化などの現代的な問題が発生し、子育てに自信が持てず、不安を抱える保護者が増えている。
- (2) 地域社会や親族間のネットワークの弱体化が進行し、従来の支援が十分に行われないという状況がある。また、支援者同士もつながりあうことが困難となり、支援の効果を十分に発揮することができていない。
- (3) 貧困などの困難な課題を抱え込んだ家庭の保護者ほど支援者となることができず、その結果として児童虐待などの問題が深刻化している。また、このことが貧困の連鎖にもつながってきている。

これらの状況から、現代は、「家庭の孤立化や、支援ネットワークの弱まりなどにより、家庭教育がより必要になっている社会」であり、これをカバーするための、地域における家庭教育の支援が必要となっている。

3 関市のめざす「家庭教育支援チーム」

「支援コーディネーター」による「家庭教育支援チーム」を組織し、以下の3点を重点的に推進することに取り組んでいる。

- (1) 親の育ちを支援する→子の誕生から自立までの切れ目のない支援
- (2) 家庭と支援者をつなげる→課題を抱える家庭と支援者の橋渡しをし、孤立を防止する。
- (3) 支援者のネットワークを広げる→様々な支援者の連携を支援、支援が要支援者に届くようにする。

これら推進の核となる「支援コーディネーター」を養成し、家庭や地域、学校と連携できる人材を養成する講座を平成30年度から、計21回にわたり開催し、今後の開催も計画している。

「家庭教育支援チーム」は乳幼児や幼稚園・保育園、小・中学校での家庭教育や家庭教育学級の活動を支援し、親の子育てに対する孤立感を和らげ、子どもたちの安定した生活環境をより良くする活動に取り組むことを目的としている。特に家庭教育学級の中で保護者が子育ての悩みを少しでも解決し、互いのネットワークを結び、学び合うことで関市全体の子育てをよりよいものにしたいと考えている。

4 「家庭教育支援チーム」の具体化に向けて

- (1) 講座の受講を通して、家庭教育支援に対する認識を深め、企画・運営のためのスキルを学ぶ。
- (2) 講座修了者は、乳幼児学級や幼稚園・保育園、小・中学校などにおいて、研修会の立案や相談、講師の紹介など、家庭教育充実のための活動を、支援者としてコーディネートする役割を担う。
- (3) 将来的には、「家庭と地域のつながりを再生する取組の推進」「支援者のネットワークを強化する取組の推進」「子どもから大人までの生活習慣づくり」に関わる活動に広がることを考えている。